

祝 辞



滋賀県立大学理事長・学長 廣川 能 嗣

湖風会「工学部学友会」第4回総会が、湖風祭に合わせて、盛大に開催されますこと、心よりお慶び申し上げます。私は、2017年4月に理事長・学長を拝命致しました廣川能嗣（ひろかわ よしつぐ）でございます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

さて、「工学部学友会」におかれましては、全学の同窓会である湖風会および滋賀県大・工学部との連携を密にして、本学のPR支援を始め、学生のための会社訪問・見学会の開催など、日頃より本学の運営にご支援ご協力を頂き、ありがとうございます。この場を借りまして厚くお礼申し上げます。また、同窓会活動で重要な会員相互の交流と親睦の推進のために、ゴルフ、ウォーキングや小旅行、カラオケ、写真、テニスなどの同好会・愛好会を設けられ大変活発に活動されていることに、心から敬意を表したいと思います。

滋賀県立大学は1995年に開学以来、今年で24年目を迎えています。その間、工学部では、開学当初の材料科学科と機械システム工学科の2学科から、2008年には電子システム工学科を新設し、幅広く工学の教育研究ができる3学科へと充実した体制に発展しました。また、本学は2006年に法人化し、公立大学法人滋賀県立大学となりました。これは、科学技術やグローバル化が急速に進み、社会やその構造が急激に変化する時代において、大学がみずから自律的に、また、迅速に運営することにより、社会から求められる教育・研究・社会貢献における大学の役割を適切に果たすためです。

法人化に伴い2006年から、設置団体である滋賀県から示される中期目標の達成を目指して、大学みずから6年間の中期計画を作成し取り組むことになっています。今年（2018年）から始まった第3期中期計画では、滋賀県立大学将来構想である「USP2025ビジョン」をベースに、大きな柱として、「教育」、「研究」、「地域貢献」、「戦略的大学運営」に加えて、「ブランド力の向上」をあげています。「キャンパスは琵琶湖。テキストは人間。」をモットーにして、「地域に根ざし、地域に学び、地域に貢献する、人が育つ総合大学」のブランドがより多くの方々に認められ、「同窓生の方々が誇りに思える滋賀県大」となるよう全学あげて取り組めますので、さらなるご支援ご協力を賜りますよう、お願ひ申し上げます。